東京外国語大学
留学生日本語教育センター論集　30：249～254，2004

日本語合同授業の報告（漢字・聴解ほか）

鈴木 智美・金子比呂子
(2003.10.31 受)

【キーワード】 合同授業、漢字、聴解、本文導入、プロジェクトワーク

1　はじめに

ここでは、2003年度１学期に予備教育課程学部留学生コースにおいて行った、漢字・聴解等の日本語合同授業について報告する。

2　実施内容

本試みでは、基本的に各曜日の第３限の日本語授業を、２クラス合同で行うことにした。授業内容については、合同で授業を行うＥ・Ｆ両クラスの主担当である鈴木智美と金子比呂子が計画した。実施にあたっては、両クラスの３限の授業に入る柏崎教官、鈴木孝恵教官にも協力をお願いした。

合同で授業を行ったクラスは、いずれも来日前の日本語学習歴がわずかであるか、あるいはほとんどない者を中心とするクラスで、学生数はＥクラス９名、Ｆクラス８名の計17名である。

基本的な授業内容は、以下の表１に示す通りである。

表１　３限合同クラスプラン（基本メニュー）

前半：45分	
①本文会話音声導入（MD 使用）	20～25分
内容把握・口頭練習・ダイアログ練習	
②本文読み（教科書）	10～15分
③ディクテーション	10分
後半：45分	
①聴解	10分～15分
②漢字	30～35分
書きクイズ・新出漢字導入・読み確認・書き確認	

3　モデルプラン

合同授業のモデルプランを、以下の表2に示す。本年度は試みということもあり、実際に合同授業を開始したのは、第4週からである。

また、第8週以降、金曜日の日本語授業は2限までとなる。したがって、第8週以降は、金曜日については合同クラスを設けず、モデルプランに示した内容は第2限に各クラスで分かれて行うことにした。

表2　3限合同モデルプラン（2003年度の実施スケジュール）

	月	火	水	木	金	
第1週	L1前半(MD導入) ひらがな4,5 (濁・半濁音)	L1後半(MD導入) ひらがな6,7,8,9 (長・拗・促音)	L2前半(以下同じ) ひらがな10,復習 (助詞)	L2後半 カタカナ 11,12,13	L3前半 カタカナ 14,15,16	本文音声導入スタート かな導入終了
2	L3後半 聴解1,2,3 カタカナ復習	L4前半 ディクテ(単語・句) 漢字1	L4後半 聴解4,5,6 漢字2	L5前半 ディクテ(単語・句) 漢字3	L5後半 読解プリント① 漢字4	聴解スタート 読解プリントスタート(週終) 漢字スタート
3	L6前半 L1本文読み 聴解7,8 漢字5	(休日)	L6後半 L1文型読み L1ディクテ(文) 聴解9,10 漢字6	L7前半 L2本文読み 聴解11,12 漢字7	L7後半 L2文型読み L2ディクテーション 読解プリント② 漢字8	本文文字読みスタート 文ディクテーションスタート
4	(休日)	L8前半 L3本文読み 聴解13,14,15 漢字クイズ1～5	L8後半 L3文型読み L3ディクテーション 聴解16,17,18 漢字9(8テスト)	L9前半 L4本文読み 聴解19 漢字10	L9後半 L4文型読み L4ディクテーション 読解プリント③ 漢字11	漢字まとめクイズスタート(週初)
5	L10前半 L5本文読み 聴解19,20,21 漢字12	L10後半 L5文型読み L5ディクテーション 聴解22,23,24 漢字13	L11前半 L6本文読み L6ディクテーション 聴解25,26 漢字14	ハイキング	L11後半 L7本文読み L7ディクテーション 読解プリント④ 漢字15	L6以降文型読みなし
6	L12前半 L8本文読み L8ディクテーション 聴解27,28,30 漢字クイズ6～10	L12後半 L9本文読み L9ディクテーション 聴解29 漢字16	L13前半 L10本文読み L10ディクテーション 聴解31,32 漢字17	L13後半 L11本文読み L11ディクテーション 聴解33 漢字18	L14前半 L12本文読み L12ディクテーション 読解プリント⑤ 漢字19	
7	L14後半 L13本文読み L13ディクテーション 聴解34 漢字クイズ11～15	L15前半 L14本文読み L14ディクテーション 聴解35 漢字20	L15後半 L15本文読み L15ディクテーション 読解プリント⑥ 漢字まとめテスト	中間試験	L16前半 能力試験4級聴解 漢字21	
8	L16後半 「日本の生活」 モデル文聞き取り 読み・Q&A 漢字22	L17前半 「日本の生活」 400字作文 漢字23	L17後半 「日本の生活」 発表(1) 質問作成 漢字24	L18前半 「日本の生活」 発表(2) 質問作成 漢字25	L18後半 「日本の生活」 質問に答える 漢字26	以後金曜2限目(合同なし) 中間試験後1週はプロジェクトワーク

9	L19前半 L16本文読み L16ディクテーション 聴解36,37 漢字クイズ16～20	L19後半 L17本文読み L17ディクテーション 聴解38 漢字27	L20前半 L18本文読み L18ディクテーション 聴解39 漢字28	L20後半 L19本文読み L19ディクテーション 聴解40 漢字29	L21前半 L20本文読み L20ディクテーション 読解プリント⑦ 漢字30	
10	L21後半 L21本文読み L21ディクテーション 聴解41,42 漢字クイズ21～25	L22前半(読み) L22前半(MD) L22前半ディクテ 聴解43 漢字31	L22後半(読み) L22後半(MD) L22後半ディクテ 聴解44 漢字32	L23 (以下同様) 聴解45,46 漢字33	L23 読解プリント⑧ 漢字34	L22以降 本文読みを先に MD音声導入を後に
11	L24 聴解47,48,49 漢字クイズ26～30	L24 聴解 50 漢字 35	L25 聴解 51 漢字 36	L25 聴解 52,53 漢字 37	L26 読解プリント⑨ 漢字 38	
12	L26 聴解 54 漢字クイズ31～35	L27 聴解 55 漢字 39	L27 聴解 56 漢字 40	L28 聴解 57 漢字 41	L28 聴解 58 漢字クイズ36～40	

全56回（1コマ／日）＋中間試験1日＋行事（ハイキング）1日＝授業日数58日

注：『初級日本語』本文は1つの課を前半と後半に分け、音声により導入する。(MD使用)

本文読み（教科書の音読確認）は、後追いの形で行う。

聴解については、本センター作成の「はじめての聴解」を使用した。

漢字No.は『初級日本語漢字練習帳』の導入番号を示す。

4　実施後の振り返り

合同授業を振り返り、気付いた点を以下に担当者別に記す。

4.1　実施後の振り返り①

（担当者：鈴木智美）

- 現行勢力にて拡大する業務に対応する可能性を探るため、合同クラスは積極的意味を持つ試みであったと言える。
- 漢字・聴解を中心とする合同クラスはメニューを定番化することができ、比較的プランを立てやすい。
- 初級日本語を終了するために必要な授業日数は、中間試験日（1日）および行事日（ハイキング1日）を含めて58日となり、日程が明確に立てやすい。
- 主・副担当、常勤・非常勤、いずれの教官でも受け持ち可能な内容である。
- ダイアログ練習を取り入れることにより、MDによる本文の音声導入を、後追いのさらなる口頭練習として位置付けることができる。
- テキストの文字を目で追い、スムーズに音読するという練習を習慣付けることができる。

・文字導入が後追いのため、中間試験後１週間は本文読みを行わない。よって、この期間を利用し、何らかのプロジェクトワークを行うことが可能となる。
・今年度は、この間「日本の生活」というテーマで１週間のプロジェクトワークを組んだ。まず「日本の生活」というタイトルのモデル作文を読み、簡単に質疑応答を行う。次に、口頭および筆記の形で、学生はそれぞれ自分自身の「日本の生活」について考える。時間内に400字の作文を書く。スピーチとしてそれを発表する。他の学生の発表に対しては、一人一つずつ質問を考える。発表者は、各学生から集まった質問に筆記形式で答える。
・他クラスとの合同により、学生は１，２限とは異なるメンバーとのペアワークを行うことができ、学生同士に良い緊張感が生まれた。
・人数が倍であるため、教師側は漢字・ディクテーション等の採点がいずれも大変になる。
・教室も大きく、人数も倍となるため、教師も声を大きくしなければならない。全体的に、教師がクラスを引っ張っていくために必要なエネルギーは、小教室での授業よりも大きい。
・教室が広いため、「本文会話」導入の際に使用するA3版の絵コピーがあまり役立たない。実物投影機による１場面ずつの提示となると、全場面を通して見渡すことができない。
・基本的に教師主導型の授業である。学生はその流れに従っていく形になる。
・授業後に復習したい学生のために、聴解テープ等の貸し出しがやはり必要である。

4.2　実施後の振り返り②

（担当者：金子比呂子）

合同授業が有効だと考えられる点

・センターで行われている少人数クラスは、言語を教える際に理想的なものではあるが、少人数で常に集中していなくてはならない授業が長時間続くと、学生の疲労度は相当なものになると考えられる。したがって、午後にやや目先の変わった授業形態をとることは学生のやる気を維持する上で有効である。また、かな文字、基本漢字の習得には「理屈抜きの」反復練習を要するが、結果的にそのための一貫した時間を確保できることとなった。
・少人数クラスは、教師と個々の学生との隔たりが小さく、学生間の関係も緊密

になって、言語学習初期にはとてもよいのだが、慣れてくると、個々の学生の甘えが出てくる場合がある。今年度は、ちょうどその頃、つまり5月に合同授業が始まったので、学生たちには新しいメンバー、新しい教師との出会いがあり、良い緊張感が生まれた。

・ロールプレイやペアワーク、ダイアログ練習などの際に、新しいメンバーのおかげで自然に生じたコミュニケーションギャップを利用できて、盛り上がった。

・合同授業はある程度の人数の「観衆」を必要とするプロジェクトワークにうってつけであり、鈴木智美先生の提唱で試みた「日本の生活」という題での作文の発表は学生にとっていい刺激になったと思う。「これは私が初めてした日本語のスピーチです。とても緊張しましたが、いい経験になりました。」という学生の言葉からも窺えるように少人数クラスでは提供しにくい「場」を与えることができた。

・漢字のクイズ、小テストなども人数が多いことでフォーマルな雰囲気の中で行われるようになり、みな「粛々と」受けるのが習慣化した。

・漢字、聴解、本文会話導入練習等に限った合同授業だったため、ある程度授業の方法、すすめるスピードを固定化でき、内容も定番化できて、十分な引き継ぎ時間がとれなくても、いろいろな教師が担当できるような態勢が可能になった。将来的にはクラスの個々の学生のタイプの違い等を完全に掌握し切れていない教師が1コマだけ入るといったことも可能になり、時間割が作りやすくなる。

工夫を要する点

・やはりクラスの人数が多くなる分、個々の学生への対応時間は短くなり、漢字の書き順、字形のチェックなどは授業時間中一人ひとりに丁寧に行う余裕はない。弱い学生には時間外に対応するなど、特別に時間をとる必要が出てくる。

・担当教師が教壇に立つ時間は若干減るといっても、教壇に立つ時の負担は重くなる。クイズのチェックの量も倍になるし、多人数の学生を惹きつけ、集中させるためには、声を張り上げ、流れが滞らないよう、倍以上の神経をつかわなければならない。

・どうしても教師の発話が多くなりがちである。人数が多くても双方向のコミュニケーションが成り立つよう、授業を工夫する必要がある。

5　おわりに

現行の教師陣で100人規模の学生を教える方法を模索する過程で、授業形態に「引き出し」を増やし、センターの日本語教育に幅や柔軟性を持たせるための、このような試みができてよかった。特定のメンバーに対して行った限定的な試みではあったが、少人数教育を前提とした上での部分的な2クラス合同という授業形態の可能性はある程度確認できたように思う。

（執筆分担：鈴木智美（1、2、3、4.1)、金子比呂子（4.2、5））

Report on a Joint 2-class Trial Focusing on Oral Comprehension Practice, Dialogue Practice and Kanji Instruction

SUZUKI, Tomomi KANEKO, Hiroko

This is a report on a joint 2-class trial, focusing on oral comprehension practice, dialogue practice and Kanji instruction.

For more than thirty years, a one-year program has been offered at the Japanese Language Center for International Students (hereinafter "the Center") to prepare international students for college level education in Japan. In this program, the number of students is limited to fewer than 8 or 9 in a class in order to achieve the ambitious goals of this sort of one-year intensive study. As the Center's student population has grown, the need has been perceived for a 2-class joint program. Therefore, in the first term (April-July) of 2003, we implemented a 2-class joint program once a day from Monday to Friday.

Although there are some points that need to be improved, we consider the program a meaningful effort.